

四半期報告書

(第30期第2四半期)

自 平成20年7月1日

至 平成20年9月30日

福井コンピュータ株式会社

福井県福井市高木中央1丁目2501番地

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態及び経営成績の分析	5

第3 設備の状況

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	8
(2) 新株予約権等の状況	8
(3) ライツプランの内容	8
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	8
(5) 大株主の状況	9
(6) 議決権の状況	9

2 株価の推移

3 役員の状況

第5 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	12
(2) 四半期連結損益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16

2 その他

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成20年11月14日
【四半期会計期間】	第30期第2四半期（自平成20年7月1日至平成20年9月30日）
【会社名】	福井コンピュータ株式会社
【英訳名】	FUKUI COMPUTER, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 眞
【本店の所在の場所】	福井県福井市高木中央1丁目2501番地
【電話番号】	0776(53)9200(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 林 治克
【最寄りの連絡場所】	福井県福井市高木中央1丁目2501番地
【電話番号】	0776(53)9200(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 林 治克
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第30期 第2四半期連結 累計期間	第30期 第2四半期連結 会計期間	第29期
会計期間	自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	自平成20年7月1日 至平成20年9月30日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
売上高（百万円）	3,283	1,625	7,570
経常利益（百万円）	59	28	820
四半期純損失（△）又は当期純利益（百万円）	△166	△171	448
純資産額（百万円）	—	5,872	6,393
総資産額（百万円）	—	7,770	8,614
1株当たり純資産額（円）	—	464.95	506.21
1株当たり四半期純損失金額（△）又は1株当たり当期純利益金額（円）	△13.16	△13.57	35.47
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	75.6	74.2
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	273	—	472
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△323	—	151
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△277	—	△401
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	851	1,178
従業員数（人）	—	445	442

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数（人）	445（129）
---------	----------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第2四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数（人）	427（129）
---------	----------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第2四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
建設業系CAD事業（百万円）	534
建築CADソフトウェア（百万円）	360
測量CADソフトウェア（百万円）	123
土木CADソフトウェア（百万円）	50
メディカルフィットネス事業（百万円）	4
ITソリューション事業（百万円）	14
その他の事業（百万円）	10
合計（百万円）	564

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当第2四半期連結会計期間の商品仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
建設業系CAD事業（百万円）	57
合計（百万円）	57

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当第2四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高（百万円）	受注残高（百万円）
メディカルフィットネス事業	4	9
ITソリューション事業	65	62
合計	69	71

- (注) 建設業系CAD事業は受注生産を行っていないため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
建設業系CAD事業 (百万円)	1,578
建築CADソフトウェア (百万円)	812
測量CADソフトウェア (百万円)	380
土木CADソフトウェア (百万円)	215
サポートサービス (百万円)	108
ハードウェア他 (百万円)	62
メディカルフィットネス事業 (百万円)	4
ITソリューション事業 (百万円)	14
その他の事業 (百万円)	27
合計 (百万円)	1,625

(注) 1. 当第2四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)
(株)リコー	269	16.6

2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、9月中旬の米証券大手の破たんにより世界レベルで金融危機が急速に拡大しました。

建設業界では、信用収縮や資金繰りの問題から、事業計画を見直すなど依然として厳しい環境でありました。

このような経済状況のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）における当第2四半期連結会計期間の業績につきましては、売上高1,625百万円、営業利益38百万円、経常利益28百万円、四半期純損失171百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①建設業系CAD事業

建築CADソフトウェア

建築業界では、昨年6月の建築基準法改正を受け着工件数が減少した影響により、今年度において資金繰りを要因とした倒産・廃業が相次ぎました。そのため法改正対応の取り組みに加え、顧客獲得を目的とした「営業プレゼンセット」の販売及び既存ユーザーへの施策強化を行ないました。この結果、建築CADソフトウェアの売上高は812百万円となりました。

測量CADソフトウェア

測量業界では、政府の公共事業削減の影響を受け、厳しい状況が続いておりますが、主に複数本使用顧客に対する優遇策を実施し拡販に努めました。この結果、測量CADソフトウェアの売上高は380百万円となりました。

土木CADソフトウェア

土木業界では、地方自治体の建設CALS/ECへの取り組みが進められる中、土木施工業者を対象にEX-TREND武蔵の活用セミナーを開催し、加えて体験版を配布するなど、市場に積極的な働きかけを行ないましたが、暫定税率失効による公共投資額の減少が影響し、新規購入者数が減少しました。この結果、土木CADソフトウェアの売上高は215百万円となりました。

これらの要因により営業利益は255百万円となりました。

②メディカルフィットネス事業

メディカルフィットネス事業につきましては、法改正等を機に介護市場は活性化してきており、当社の掲げるメディカルフィットネス構想に賛同される業界関係者は多いものの、市場においては投資が進んでおらず、導入に向けてシステムの有用性や将来性の理解を求めながら営業活動を行ないました。この結果、当第2四半期連結会計期間は介護向けシステム等の実績を含み、売上高は4百万円となり、営業損失は52百万円となりました。

③ITソリューション事業

ITソリューション事業につきましては、建設業向けにはSaasシステム「ARCHITREND Do!Photo」の販売を強化し、報道機関向け出口調査システム「OneClickCounter」も首長選などで幅広く利用されました。この結果、売上高は14百万円となり、営業損失は33百万円となりました。

④その他の事業

その他の事業では、スクール事業などにより売上高27百万円、営業損失3百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は（以下「資金」）、第1四半期連結会計期間末より324百万円減少し851百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、163百万円となっております。主な要因としましては、売上債権の減少額136百万円、減価償却費83百万円の計上等による増加と、たな卸資産107百万円の増加等による減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、443百万円となっております。主な要因としましては、定期預金の預入による支出195百万円、投資有価証券の取得に伴う支出260百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、45百万円となっております。主な要因としましては、配当金の支払45百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、182百万円であります。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因についての分析

当社グループは、建築・測量・土木の各種CADソフトウェアの開発及び販売を主たる業務とし、またこれらのソフトウェアに関連する情報機器の販売も行っております。当社グループが販売するソフトウェアの用途は、建築・測量・土木の専門分野に特化しており、建築・測量・土木CADソフトウェアの販売実績の合計は、当第2四半期連結会計期間における総販売実績の86.6%を占めております。このことにより、当社グループの経営成績は建設業界の動向に影響を受ける可能性があります。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、従来のユーザーの顧客満足度向上に邁進し、そのニーズを新商品にフィードバックさせることで、さらにユーザーニーズに合致した高付加価値商品を生み出すことが可能になるものと考えております。今後は、これまでのユーザーを大切にしつつ、新規顧客の囲い込みに取り組んで参ります。そのためには、経営理念やステークホルダー共存共栄の精神を順守しつつ、アライアンス戦略にも積極的に取り組む所存です。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループにおける資金使途としましては、主たる事業がソフトウェア関連であることから、ロイヤリティの支払い、開発部門の人件費が中心となる研究開発費、販売費及び一般管理費、配当金や税金の支払いなどとなっております。また、将来的な資金需要としましては、現在の主たる事業の拡大や新規事業への参入などが具体化した場合に新たな資金需要の発生が予測され、これらの資金需要が生じた場合、内部資金で手当てし、必要な場合には、銀行の借入により資金調達を行うこととしております。

自己株式取得につきましては、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を可能にするため、必要と判断した場合、市場環境、当社の財政状態を鑑みながら行っていきます。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数 (株) (平成20年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,295,000	13,295,000	東京証券取引所 市場第一部	—
計	13,295,000	13,295,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年7月1日～ 平成20年9月30日	—	13,295	—	1,631	—	2,861

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
小林 眞	福井県福井市	3,492	26.27
株式会社ダイテック	愛知県名古屋市東区主税町4-85	2,510	18.88
株式会社北國銀行	石川県金沢市下堤町1	379	2.85
小林 清子	福井県福井市	309	2.33
小林 真一郎	福井県福井市	270	2.04
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川2-27-2	224	1.68
株式会社イチネン	大阪市淀川区西中島4-10-6	209	1.57
山崎 喜由樹	福井県福井市	205	1.54
福井コンピュータ従業員持株会	福井県福井市高木中央1-2501	204	1.54
株式会社福邦銀行	福井県福井市順化1-6-9	176	1.33
計	—	7,981	60.03

(注) 上記のほか、自己株式が664千株あります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 664,200	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 12,626,900	126,269	—
単元未満株式	普通株式 3,900	—	1単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	13,295,000	—	—
総株主の議決権	—	126,269	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,100株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数11個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
福井コンピュータ株式会社	福井県福井市高木中央 1丁目2501番地	664,200	—	664,200	5.00
計	—	664,200	—	664,200	5.00

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高（円）	598	628	610	616	589	520
最低（円）	541	548	567	579	475	451

（注） 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の様動はありませぬ。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、第1四半期連結会計期間（平成20年4月1日から平成20年6月30日まで）から、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,346	1,703
受取手形及び売掛金	891	1,338
有価証券	10	10
商品及び製品	32	35
仕掛品	65	6
原材料及び貯蔵品	81	20
その他	196	209
貸倒引当金	△5	△8
流動資産合計	2,619	3,316
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,032	2,044
土地	1,003	1,003
その他（純額）	76	84
有形固定資産合計	※1 3,113	※1 3,132
無形固定資産		
のれん	83	94
その他	193	258
無形固定資産合計	276	352
投資その他の資産		
投資有価証券	925	889
その他	842	928
貸倒引当金	△6	△5
投資その他の資産合計	1,761	1,812
固定資産合計	5,150	5,297
資産合計	7,770	8,614

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66	61
未払法人税等	29	141
前受金	1,125	1,037
賞与引当金	103	188
その他	428	646
流動負債合計	1,752	2,075
固定負債		
長期未払金	144	145
固定負債合計	144	145
負債合計	1,897	2,220
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,631	1,631
資本剰余金	2,861	2,861
利益剰余金	1,822	2,266
自己株式	△365	△365
株主資本合計	5,950	6,394
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△85	△8
為替換算調整勘定	7	7
評価・換算差額等合計	△77	△0
純資産合計	5,872	6,393
負債純資産合計	7,770	8,614

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	3,283
売上原価	684
売上総利益	2,599
販売費及び一般管理費	※1 2,548
営業利益	50
営業外収益	
受取配当金	7
受取保険金	10
その他	16
営業外収益合計	35
営業外費用	
貸貸費用	2
投資事業組合運用損	21
その他	2
営業外費用合計	27
経常利益	59
特別損失	
固定資産除却損	2
投資有価証券評価損	90
特別損失合計	92
税金等調整前四半期純損失(△)	△33
法人税、住民税及び事業税	16
法人税等調整額	116
法人税等合計	133
四半期純損失(△)	△166

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
売上高	1,625
売上原価	332
売上総利益	1,292
販売費及び一般管理費	※1 1,253
営業利益	38
営業外収益	
受取配当金	6
受取保険金	1
その他	6
営業外収益合計	14
営業外費用	
賃貸費用	0
投資事業組合運用損	21
その他	1
営業外費用合計	24
経常利益	28
特別損失	
固定資産除却損	1
投資有価証券評価損	90
特別損失合計	91
税金等調整前四半期純損失(△)	△63
法人税、住民税及び事業税	10
法人税等調整額	98
法人税等合計	108
四半期純損失(△)	△171

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△33
減価償却費	170
賞与引当金の増減額(△は減少)	△85
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△38
投資有価証券評価損益(△は益)	90
売上債権の増減額(△は増加)	447
たな卸資産の増減額(△は増加)	△117
前受金の増減額(△は減少)	88
その他	△131
小計	390
利息及び配当金の受取額	11
法人税等の支払額	△127
営業活動によるキャッシュ・フロー	273
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△390
定期預金の払戻による収入	420
有形固定資産の取得による支出	△57
無形固定資産の取得による支出	△23
投資有価証券の取得による支出	△305
投資有価証券の売却による収入	25
その他	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△323
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△277
財務活動によるキャッシュ・フロー	△277
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△327
現金及び現金同等物の期首残高	1,178
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 851

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更 たな卸資産 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。</p> <p>これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。</p> <p>これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額は、2,692百万円であります。	※1 有形固定資産の減価償却累計額は、2,649百万円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給与手当	696百万円
賞与引当金繰入額	69
研究開発費	376

当第2四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給与手当	347百万円
賞与引当金繰入額	35
研究開発費	182

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年9月30日現在) (百万円)	
現金及び預金勘定	1,346
有価証券勘定	10
預入期間が3か月を超える定期預金等	△505
<u>現金及び現金同等物</u>	<u>851</u>

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 13,295千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 664千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月21日 定時株主総会	普通株式	277	22.00	平成20年3月31日	平成20年6月23日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日 至平成20年9月30日）

	建設業系 CAD事業 (百万円)	メディカル フィットネ ス事業 (百万円)	I T ソリューション事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	1,578	4	14	27	1,625	—	1,625
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,578	4	14	27	1,625	—	1,625
営業利益又は営業 損失(△)	255	△52	△33	△3	166	△128	38

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

	建設業系 CAD事業 (百万円)	メディカル フィットネ ス事業 (百万円)	I T ソリューション事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	3,189	4	28	61	3,283	—	3,283
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,189	4	28	61	3,283	—	3,283
営業利益又は営業 損失(△)	533	△141	△57	△6	327	△276	50

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
建設業系CAD事業	建築CADソフトウェア、測量CADソフトウェア、土木CADソフトウェア等
メディカルフィットネス事業	フィットネス機器、その他ジム用機器等
ITソリューション事業	選挙出口調査システム、CAD以外のシステム開発等
その他の事業	てなわん宿泊予約、CADスクール等

3. 従来、事業の種類別セグメント情報は、CADソフトウェア関連事業の売上高、営業利益及び資産の金額が全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため記載を省略しておりましたが、第1四半期連結会計期間より当社にメディモ事業部を新設し販売を開始したこと及びITソリューション事業の重要性が増したことに伴い、当第2四半期連結会計期間より事業の種類別セグメントを建設業系CAD事業、メディカルフィットネス事業、ITソリューション事業、その他の事業に区分して開示しております。

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日 至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日 至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末（平成20年9月30日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末（平成20年9月30日）

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日 至平成20年9月30日）

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間（自平成20年7月1日 至平成20年9月30日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	464.95円	1株当たり純資産額	506.21円

2. 1株当たり四半期純損失金額等

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純損失金額	13.16円	1株当たり四半期純損失金額	13.57円
なお、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
四半期純損失(百万円)	166	171
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	166	171
期中平均株式数(千株)	12,630	12,630

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月4日

福井コンピュータ株式会社
取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 上 楽 光 之 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 市 川 育 義 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている福井コンピュータ株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、福井コンピュータ株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成20年11月14日
【会社名】	福井コンピュータ株式会社
【英訳名】	FUKUI COMPUTER, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 真
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	福井県福井市高木中央1丁目2501番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長小林 眞は、当社の第30期第2四半期（自平成20年7月1日 至平成20年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2【特記事項】

特記すべき事項はありません。